

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4075400327		
法人名	ケア・サービス株式会社		
事業所名	グループホーム かえで (華の街通り)		
所在地	福岡県鞍手郡鞍手町室木801番地		
自己評価作成日	平成23年1月26日	評価結果確定日	平成23年 02月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5-27	TEL	093-582-0294
訪問調査日	平成 23年02月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居年が長くなるにつれ、利用者様は高齢になっていきます。体力も少しずつ低下していく皆さんの生活のメリハリと残存機能の維持を兼ねて、一日2回ラジオ体操を実施しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	心の通じ合うケアを目指し日々の努力を重ね、管理者やケアマネージャーとも常に意見の交換をしている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々と常日頃交流している。盆踊り、餅つき大会、近隣の小学校の子供達との交流会や、舞踊、演奏の慰問がある		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方々に認知症の理解を得る為、オープンに見学者やボランティアを受け入れている		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に運営推進会議を行なって意見の交換をすることで、利用者により良いケアが出来るように役立っている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	スプリンクラーの設置時や、指定更新時の書類作成についての情報提供をお願いしている。また、二ヶ月に一回の運営推進会議にも必ず参加していただき、現在のケアサービスの状況報告を行なっている		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	利用者が安全かつ自由に生活できるように努めている。夜間以外の施錠はしない。身体拘束は行っていない。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者・職員は利用者や家族とのコミュニケーションを密にとり、開けたケアサービスを行なう事で虐待防止に努めている。職員のケアストレスの把握に努め、利用者の肉体的・心理的变化に十分に配慮する		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度の研修に参加している。今後は全職員の理解と知識の共有のために、ホーム内での研修の機会をつくるようにしたい		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やその家族の方と、見学や説明の場を儲け、十分な理解・納得に努めている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や御家族の訪問時の意見や要望を伺った時は、月に一度のカンファレンスや二ヶ月に一度の運営推進会議にて全職員や第三者の意見交換し、今後の運営につなげる努力をしている		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度のミーティングにて、職員は代表や管理者と話し合いの場を儲け、意見交換を行っている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の有する能力や勤務条件を考慮し、今の勤務体制や労働条件に不安・不満はないか、目標意識や資格取得への意欲の有無などを確認しながら、前向きに勤務できるような職場環境の整備を心がけている		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きと勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集や採用にあたって、年齢・性別等の理由での採用基準は設けていない		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	認知症実践者研修の参加を定期的に行なっている。 また、毎月のケアミーティングの中でも、利用者に対する人権の尊重が守られているか、日頃のケアを見直すようにしている		
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職者には積極的に研修を受ける機会を設け、参加を促している。また、個々の職員の有する能力に応じて、適切な外部研修への参加を促している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域での福祉イベントなどには積極的に参加する機会を作っている		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が新しい環境を受け入れられるようになるため、まずはコミュニケーションをとり、困っている事や不安や希望を話しやすい環境を心がけている		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族と本人を交えながら、希望や心配な点を伺い、それに沿ったこれからのサービスの方針作りに努めている		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現時点でまず必要な支援は何か、本人や家族と話し、迅速で適切な対応を心がけている		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	リビングで一緒にテレビを見ながら世間話をしたり、利用者数人と一緒に日用品の買い物に出掛けたりしている		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会に来られた時は利用者の現在の状況をお話すると共に、今後の関わり方、ケアの方針を一緒に考えるようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や友人に手紙や電話で交流する支援をしたり、時間のあるときは馴染みの場所をドライブしている		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日中は出来るだけみんながいるリビングに出てきていただき、一緒にテレビを見たりカラオケを楽しまれている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後、入院されている場合はお見舞いに伺ったり、家族の方に経過を伺ったりしている		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が希望される生活のスタイルを把握する。居室で独りで過ごすのが好きな方や散歩や畑仕事が好きな方など、その方に応じた生活を支援している		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族の方から話を聞き、入所する以前の生活または職歴を把握する事で、会話等のコミュニケーションに活かす様にしている		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝バイタルチェックをする。顔色や本人の希望などチェック以外も考慮して、その日の活動を決めるようにしている		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日頃のコミュニケーション以外にも利用者や家族が参加する担当者会議を年数回開くなど要望や意見を伺う機会を持ち、月に一回のケアミーティングにて職員全員が話し合い、より良い介護を行えるよう計画を立てる		
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌を必ず時間ごとで記入する。ホーム内の行事または日夜気付いた事を職員間で共有しやすいように、別ノートにも記入し、目を通した職員がサインするようにしている		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者の希望にあわせて、畑での野菜作りやカラオケ、職員同行の病院受診の支援などを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くの小学校とのふれあい行事や庭で季節の野菜や花を植えたり、気候のいいときには近所に花見に出掛けたりしている		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	必ず家族との相談の上、希望の病院に受診するようにしている。また、二週間に一度の往診の際にも、近況報告にあわせてかかりつけ医の意見を伺いながら、状況によっては御家族に報告、相談するようにしている		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場に看護職員は不在だが、訪問看護師に、近況報告をしたり、緊急時の対処方法を相談したりと、個々の日常の変化を常に気をつけて連絡や相談をするようにしている		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時や退院時にスムーズに介護と医療の橋渡しが出来るよう、利用者の日常を事細かく確実に情報が伝達出来るよう努めている		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、ターミナルケアは行っていないが、どのようにしたら本人や家族が一番幸せに思っていただけなのか話し合いを重ね、病院との連携を図りながら出来る限りの支援に努めている		
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時のときは、慌てずに落ち着いて適切に対応できるように心がけている。対応マニュアルをいつでも見えるところに置いている		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災防火訓練を行い、いざというときの具体的な避難訓練や方法の見直しなどを行なっている。また、緊急時は連絡網により、職員全員に情報が行き渡る体制をとっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一緒に喜んだり悲しんだり、一人ひとりの感情に共感し、尊厳と性格に沿った声掛けを行うように努めている		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と会話やコミュニケーションの時間を出来るだけ多く作り、本人が望む生活や選択する自由を多く提供できるようにしている		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の業務の型にはめず、出来るだけ利用者の希望に添って一日を楽しく過ごしていただけるよう支援している		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望があれば一緒に洋服を買いに行ったり、その人に合った清潔感のある服装を一緒に考え、おしゃれを楽しんでいただけるよう支援している		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	出来るだけ季節感のある旬の素材を使って、利用者の希望を取り入れながら、一緒に献立を決めている。また、食前食後のテーブル拭きや、食事用エプロンの取入れなどを利用者の方をお願いしている		
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの運動量や健康状態を考慮しながら、摂取量や摂取時間、硬さ、道具などを工夫し、各利用者に適した食事や水分量の摂取を支援している		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立している利用者は、声掛けと見守りにて毎食後の口腔ケアを実施している。 自己での口腔ケアが困難な方は、職員の介助にて個々に応じた方法で口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄パターンを把握し、その方にあつた時間のトイレ誘導及び用品の使用での介助に努めている		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各利用者の排便チェック表を利用し、日課であるラジオ体操で定期的に身体を動かしたり、水分や食物繊維質の多めの摂取を心がけることで、快便を促すように努めている		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそつた支援をしている	曜日に拘らず、体調を見て出来る限り利用者の希望を取り入れながらの入浴を支援している		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休息や就寝は、見たいテレビ番組や入浴日によって、各自自由にしていただいている。また、寝具なども天気のいい日は積極的にウッドデッキに干すようにし、気持ち良い安眠の提供に努めている		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者別に薬の処方箋をファイルし、いつでも見える様にする事で職員の理解と知識の共有に努めている		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各自の楽しみや趣味を積極的に生活に取り入れるように支援している。また洗濯物の取り込みや仕分け作業、週二回の各居室のゴミ回収を利用者と共に行なう事などで、生活のリズムを整えるようにしている		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそつて、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節や天候に応じ、花見や日用品の買い物の為の外出や、家族の協力を得て自宅への外出や外泊を支援している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に金銭の管理は事務所でを行い、本人の希望がある都度手渡し、一緒に買い物などを行なうようにしている		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者自らが希望する場合は、家族の在宅時間を考慮し、電話のやり取りを支援する。はがきや封書などを家族や知人とやり取りが出来るよう、常に買い置きをしている		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室やリビングには、認知症の進んだ利用者への安全面に配慮しつつ、季節感を感じるような装飾、しつらえを心がけている		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各利用者の個室が設けられているので、それぞれの居場所は確保されている。 リビングでは、気のあった利用者同士が、ソファーに座ってカラオケを歌ったり同じテレビを見られる空間作りをしている		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべく本人が自宅で利用していた馴染みの家具や寝具を使用できるよう配慮している		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物の中はバリアフリーで設計されている。 転倒、事故等が無いよう、リビングやトイレ等の物品を配置。定期的に安全性に問題が無いか、点検する		